

欲求不満のお隣ちゃんに
押し倒されちゃう話





ふう、良かったよ
お隣ちゃん

うん、あたしも
気持ち良かったよ
お兄さん

いつもいつも
お兄さんは激しくて好きよ
いつもあたいの気持ちいい
所あたるの

僕もお隣ちゃんの中は好きさ
きゆうきゆうと僕のを
受け止めてくれて

僕とお隣ちゃんは
お互いの体を
触れ合う関係だ

んもう！
お兄さんったら

グズりゃん♡

始まりはこうだ

お兄さん…

なんでも、お隣ちゃんは
三ヶ月に一度は発情期に
入るらしく

あたいと…SEXしませんか…？

体が疼いて疼いて
仕方が無いのだとか…

猫というものは
そういうもので

発情期に周囲に
オスが居ないと
もの凄いストレスを
感じるものらしい



僕が地霊殿で
働き始めるまで

周囲にオスが
居なくて困って
いたとか

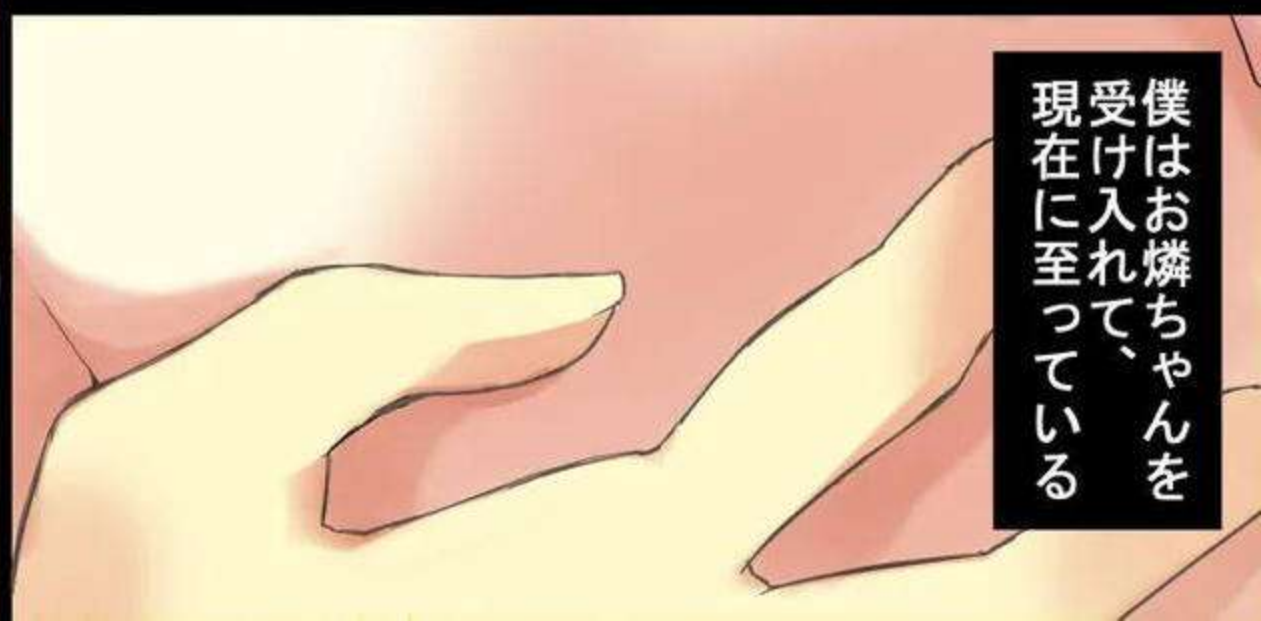


僕らは相性が良かったらしく
いつも時間が許すまで
気持ちよくしたり
気持ちよくなったりを
いつまでも繰り返している

この爛れた関係も
大分続いて
お互いの体
生活の一部になっていた



僕はお隣ちゃんを
受け入れて、
現在に至っている



そんなある日
僕とお空ちゃんが
地上へお使いする事になった



久々の地上だったので
楽しんでらっしゃいと
さとり様が二週間
お暇をくれた



僕は、お空ちゃんと地上を
満喫した



楽しくて、予定の期間より
長く滞在してしまった

そして地霊殿に戻ってきた



さとり様とこいし様は
僕らを出迎えて来たけど
そこにお空ちゃんの姿は
無かった



僕は不審に
思ってた屋敷を
探した











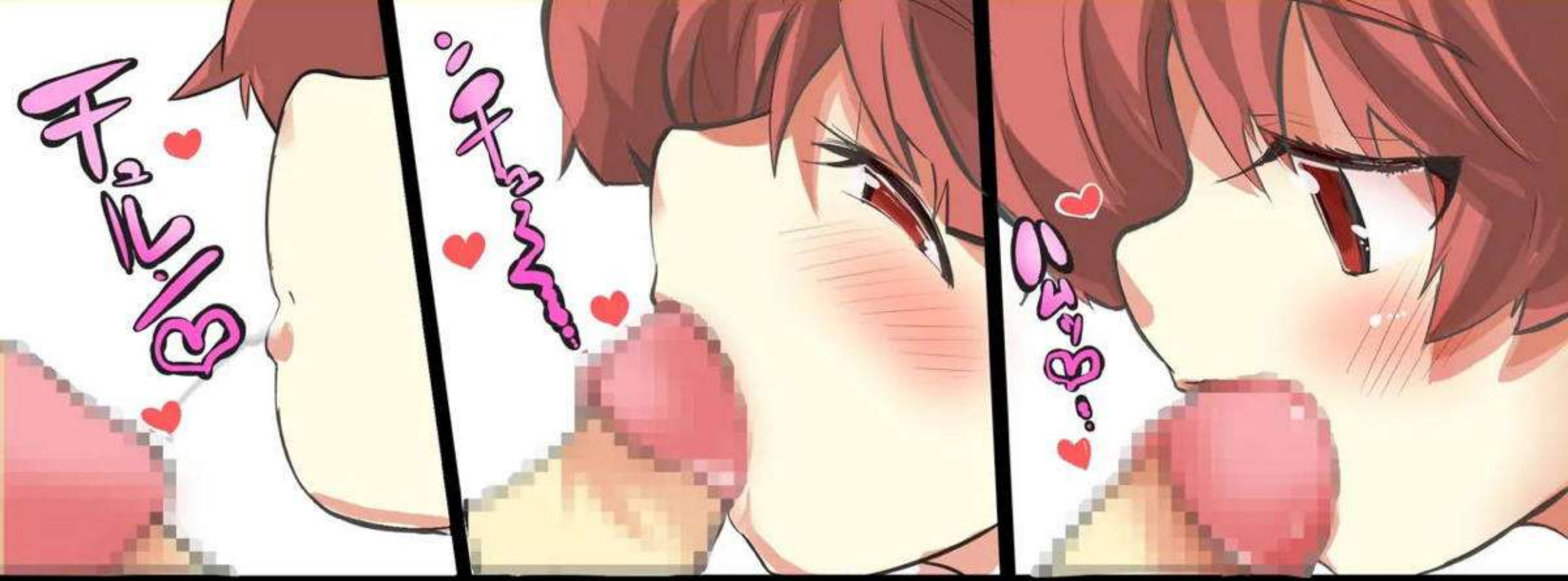
舐めて、あたいのアソコを
舐めてよ、お兄さん！

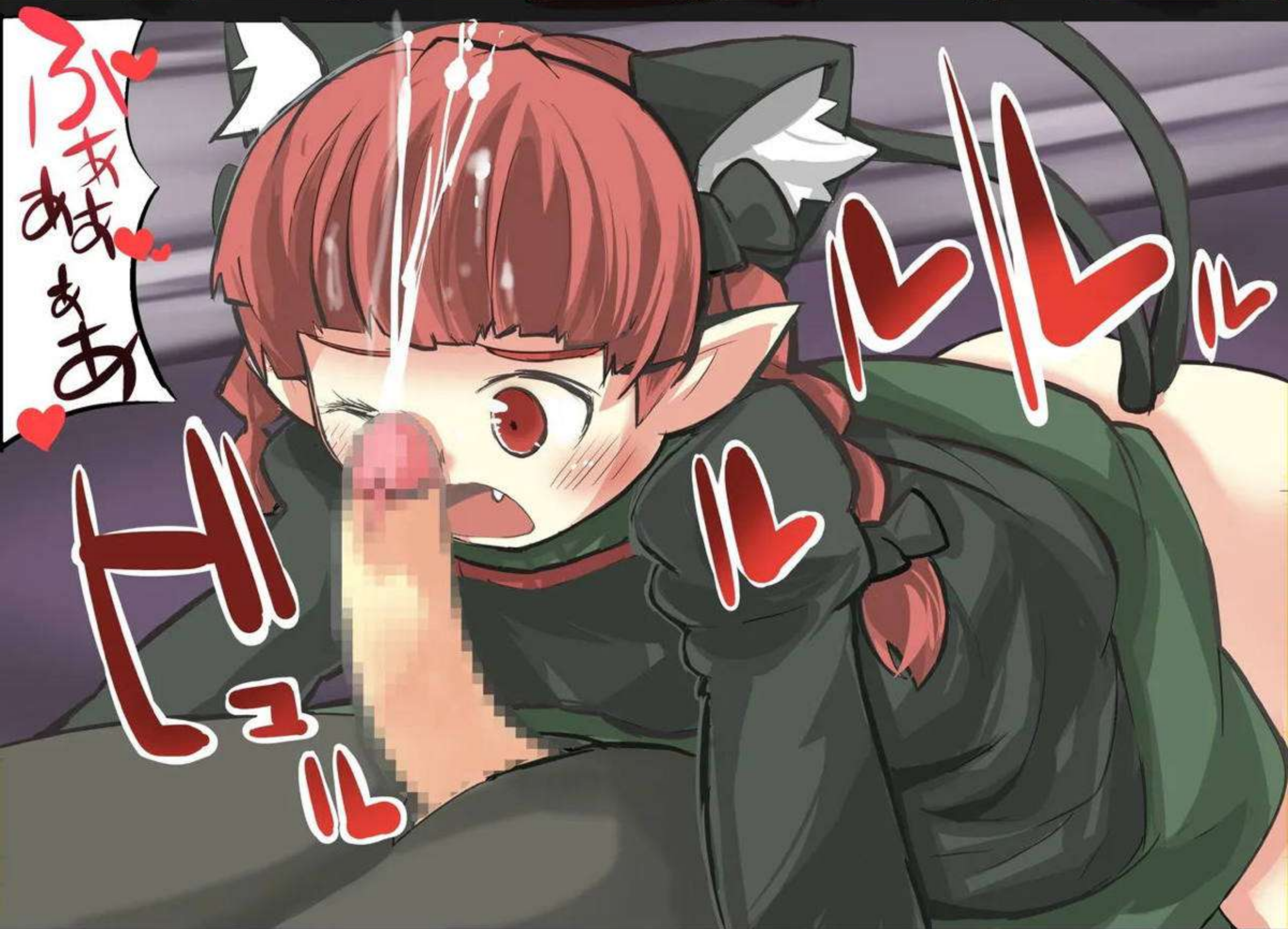


クンニして！お兄さん
あたいの疼きを止めてよおおっ！









あたいはまだイけてないのにつ！

お兄さん一人で
イってずるい！

あたいはお兄さんに
放置されてずっと
我慢していたのに

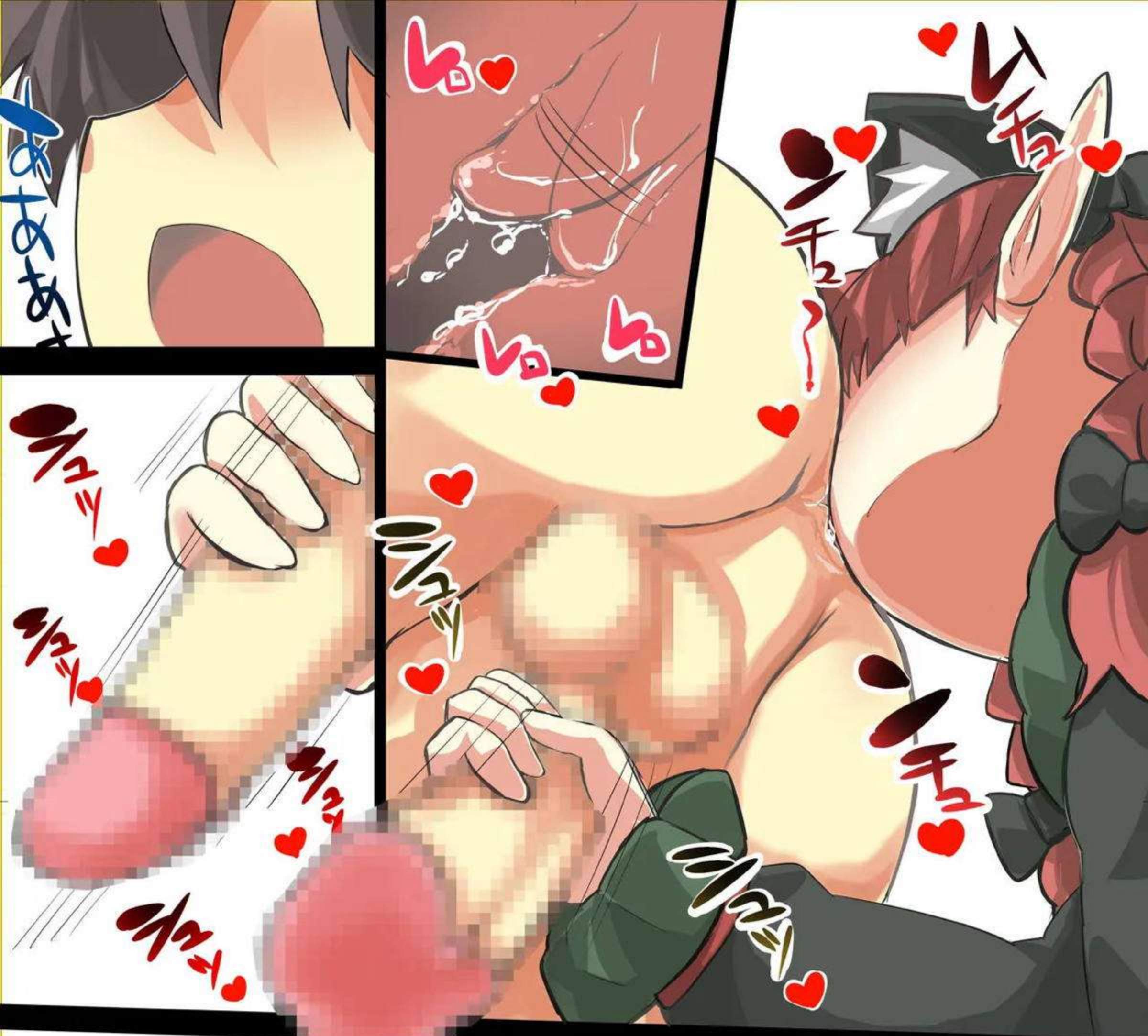
あたいはお兄さんを
気持ち良くして

お兄さんは
あたいを気持ち良く
する

そういう
約束でしょう！

うわっ！

フッ...









ダメだ、お隣ちゃんより
先にはイかない……

今までお隣ちゃん
ずっと我慢していたんだから

ちゃんとお隣ちゃんを
気持ち良くさせてから……

うん、あたいを
イかせて頂戴

お兄さんと
一緒に、あたいと



お兄さんっ、お兄さ……っ
は、激し……もう、イきそ……



あ、ああ、お隣ちゃん……
いく……よ……っ！

